

『街や駅などでお困りの方へのお手伝い』

平成17年3月12日（土）

身体障害者福祉センター 廣森 永子

●障害者ってどんな人がいるの？

- ①視覚障害者
- ②肢体不自由
- ③聴覚・平衡機能の障害
- ④音声・言語機能又はそしゃく機能障害
- ⑤内部障害
- ⑥知的障害
- ⑦精神障害

●バリアフリーってなに？

社会生活を送る上で、障壁（バリア）となっているものを除去（フリー）するという意味。

●障害者をとりまく4つのバリア

物理的バリア

- 道路・建物の段差
- 路上の放置自転車
- 片方しかない手すりなど

制度的なバリア

- 点字による受験が出来ない
- 障害があることによって就職
ができないなど

文化・情報面でのバリア

- 音の出ない信号機
- 字幕のないテレビや映画
- タッチパネル式の機械など

意識上のバリア

- 「障害者のくせに」という態度
- 社会の迷惑と思う心など

●外出した時、みんなはどんなことで困っているの？

目の不自由な人は・・・

- ・青信号の色がわからないので、交差点を渡るのが怖い。
- ・駅では目的地までの料金表や時刻表がわからない。
- ・点字ブロックの上に自転車や物が置いてあって歩きにくい。
- ・電車、バス、お店などの入り口の位置がわからない。
- ・盲導犬の入れないお店がある。
- ・黄色以外の点字ブロックは見えにくい。



耳や言葉の不自由な人は・・・

- ・後ろから来る自転車や車がわからない。
- ・駅構内や車内放送が聞こえないので、電車が遅れているなどの状況がわからない。
- ・筆談をお願いしても書いてくれない人もいる。
- ・外見は普通なので、障害を理解してもらえない。



手足の不自由な人やベビーカーを押しているひとは・・・

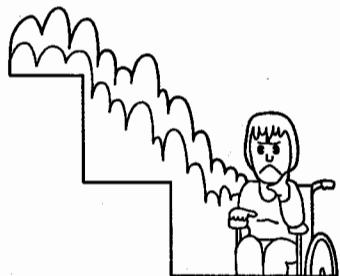
- ・横断歩道の手前や、お店のちょっとした段差が越えられない。
- ・エレベーター やエスカレーター、手すりのない階段は怖い。
- ・側溝のふたにある穴につまづいたり、杖や車輪がはまってしまう。
- ・エスカレーターを利用したくて遠い所にあったりして利用しにくい



●はじめはどうしたらいいの？

① はじめの一歩は声かけから！！

- ・困っている人を見かけたら、後ろからではなく相手の前方から『失礼ですが、何かお手伝いしましょうか？』と声をかけて下さい。でも、いきなり手をひっぱたりして相手をおどろかせないように気をつけてください。



② その次は何をしたらいいの？

- ・困っている人それぞれ、困っている内容や手伝い方が違います。声をかけた後は『どのようにお手伝いをしたらようですか？』とたずねてください。
- ・手伝いを必要としない人もいらっしゃいます。その時は『お気をつけて』と声をかけて、さりげなく見守ってあげて下さい。

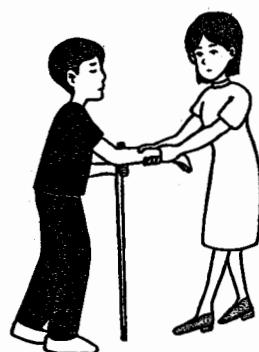


参考資料

目の不自由な方との接し方

- ・手をひっぱたり、うしろから押したりすると危険ですのでやめてください。
- ・誘導を行う場合は、半歩前に立ち、肘や肩につかまってもらいます。

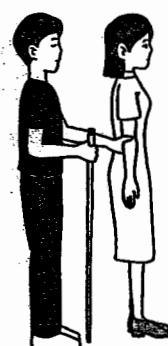
×



×



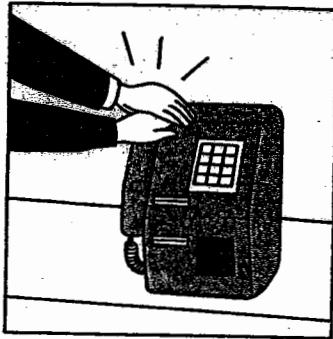
○



○



- ・途中段差や階段があった場合は、障害物の前で立ち止まり、声をかけてから進みます。



- ・物を探している時は、誘導するだけでなく手で触らせてあげます。
- ・その場を離れる時は必ず声をかけます。

耳の不自由な方との接し方

- ・相手に顔がよく見える位置に立ち、はっきりと口を開け少しうっくりと話しかけます。
- ・身振りや空書きも一緒に行うと相手にわかりやすいです。
- ・もし筆談を頼まれた時は、箇条書きで書くと相手に解りやすいです。

車椅子の方への接し方

車いすの安全な押し方

段差のある場合での押し方

段差の下り



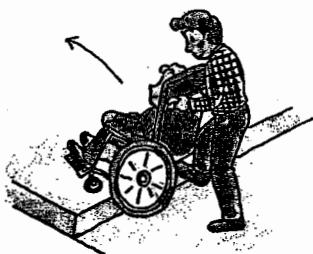
後ろ向きになり、ゆっくり後輪を下ろす。

2



ステッピングバーを踏んで前輪を上げ、
後ろに引いて前輪を静かに下ろす。

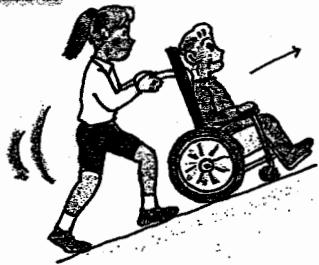
段差の上り



ステッピングバーを踏んで前輪を段の
上に上げてから、後輪を押し上げる。

坂道での押し方

上り坂



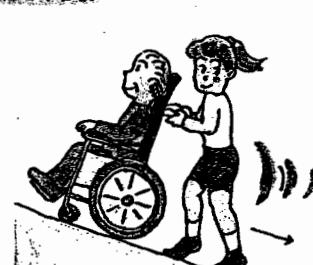
後ろから、からだを少し前傾させ、一
歩一步しっかりと押す。押し戻されない
ように注意する。

ゆるい下り坂



前向きで車いすを引くようにして下り
る。

急な下り坂



後ろ向きになり、一步一歩ゆっくりと
下りる(ブレーキを軽くかけておく)。

知的障害者の方との接し方

- 理解するのに時間がかかったりしますので、ゆっくりと解りやすく説明し
てあげます。

メモ